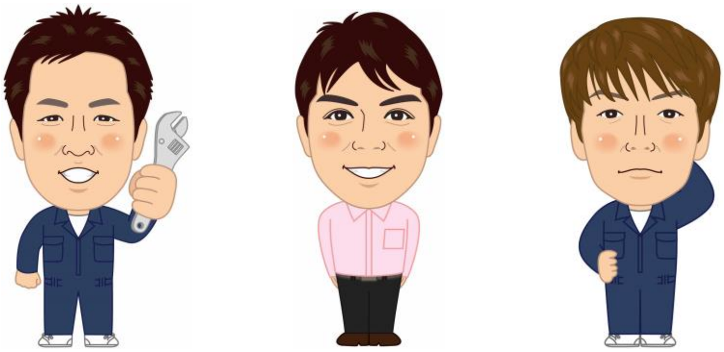
エコアクション２１
環境経営レポート

活動期間　2020-1 月～2020-12 月

2020 年度



株式会社　オートアベニュー

2021 年 2 月 15 日発行

2021 年 3 月　5 日改定

1　会社概要

事業所名	株式会社　オートアベニュー
代表者氏名	代表取締役　伊藤　理香
所在地	〒１８８－００１１　東京都西東京市田無町7-18-8
環境管理責任者	飯野　勇
連絡先	〒１８８－００１１　東京都西東京市田無町7-18-8 ＴＥＬ：042-466-3233　ＦＡＸ：042-465-5101 E-mail：isamu-iino@auto-avenue.co.jp
事業規模	社員数　21人 社屋床面積　369.01ｍ^2 売上高　1,361（百万円）（2020年度：2020年1月～2020年12月）
適用範囲	全社・全組織
事業内容	自動車販売・整備及び宅配用バイクの販売・整備・レンタル業、損害保険代理店業
対象事業所	本社・工場、第二工場

2　環 境 経 営 方 針

環境理念

地球環境保護、二酸化炭素排出量削減が世界的に叫ばれる現在、当社の企業活動を通じ、この緑豊かな武蔵野台地の環境を守り、地域社会に貢献できる企業を目指します。

環境問題は、自動車整備・販売に携わる事業者の最重要課題です。自社における二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、使用水量の削減に取り組むと共に、顧客へのエコ整備の普及・促進を通じて、燃料消費率向上による二酸化炭素排出量の削減や、排出ガスの清浄化を目指します。また、低公害車の販売に努め、地球環境及び地域環境の保全に配慮し、継続的改善に取組んで行動します。

環境行動方針

当社は、環境との共生・調和を最重要課題として認識し、自ら責任を持ち全従業員をあげて環境負荷の低減に配慮した活動に取り組みます。そのために、以下の「環境行動方針」を定めます。

（１）二酸化炭素排出量・削減の推進

事業活動に於ける電力・ガソリン・軽油などの削減による二酸化炭素排出量の低減に努めます。また社用車においても、急発進、急加速、急停止などを排除し、やさしい運転に努め、エコドライブを励行し自動車使用による環境負荷の低減に努めます。

（２）廃棄物排出量・削減の推進

事業所から出る廃棄物を最小限にする努力をします。そのために、分別処理を徹底し、リサイクル化を推進します。

（３）総排水量・削減の推進

事業所内で使用する使用水量の削減により、総排水量の削減に努めます。

（４）エコ整備・エコ車検の推進（お客様における二酸化炭素の削減）

自動車における燃費の向上による削減や、有害な排出ガスの削減を目ざし、エコ整備･エコ車検を強力に推進します。そのために、エコ整備の有用性についての説明に努めます。

（５）エコカーの販売促進（お客様における二酸化炭素の削減）

大気汚染物質の排出が少なく、環境への負担の少ない車両を積極的に販売していきます。
そのために、エコカーに限定したチラシを作成し、販売促進に努めます。

（６）リサイクル活動による省資源化の推進

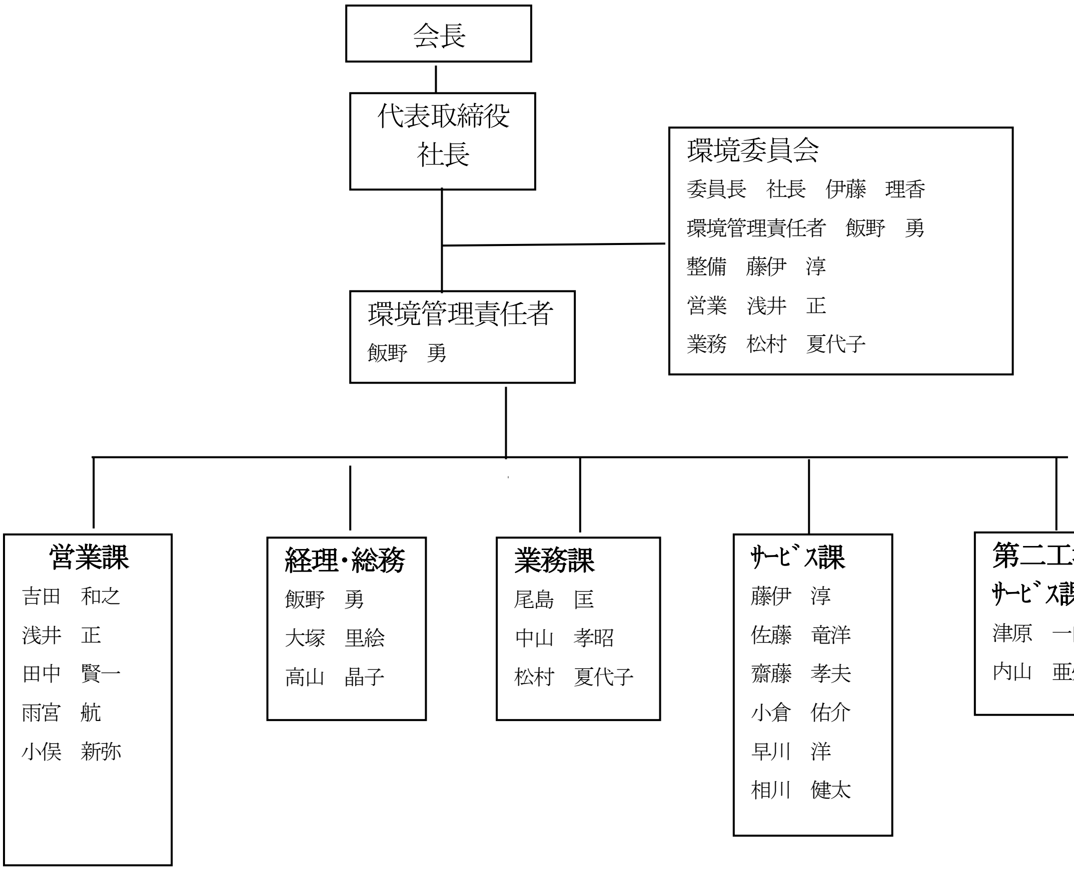
省資源のために、リサイクルの自動車部品及び三輪バイク部品の使用を積極的に推進します。
プラゴミのリサイクル回収を推進します。

（７）環境関連法規制等の遵守

環境関連法規制等を遵守することを誓約します。

平成２１年３月１日制定
令和　２年１月１日改定
株式会社オートアベニュー
代表取締役　伊藤　理香

3　環境管理組織



取締役会長

1. 記録・報告及び見直し記録に対する全般的な指示をする。
   月に一度の各エコチームリーダーの取りまとめた数字に基づき、全社としての取り組みを把握し、更なる社員の啓蒙活動への指示を文書にて行い指示記録を保管する。

代表取締役（当社の環境経営最高責任者として次の役割を負う）

1．環境方針を定め、環境管理責任者、環境管理委員を任命する。
2．環境経営システムの実施・運用のための経営諸資源を準備する。
3．環境目標、実施計画の承認。環境経営マニュアル及び規定類の制定・改訂の承認。
4．環境経営システムの見直し。
5．課題とチャンスの明確化

環境管理責任者

1．環境委員会を運用・維持管理する責任として、環境経営システムが全ての部署で確実に実行、維持されるための必要な活動の管理と推進をする。
2．環境経営マニュアルの作成、改訂を行う。
3．会長に環境経営システムの実績の報告及び見直し記録を報告する。

環境委員会

代表取締役を委員長とし、環境管理責任者及び会長から選任された委員で構成し、環境方針、環境目標、実施計画、教育訓練計画等会社の環境に関する事項の審議、立案及び運用状況の評価等を行う。

従業員

日常の作業において、環境方針に基づき、環境管理システム規格類及び関連する法規制とその他の要求事項の順守。

第二工場（二輪整備工場の拡大)

本社近くに2020年6月より第二工場（二輪整備工場）として稼働開始

第二工場の環境負荷は電気のみ把握しているが、他は本社と合算で計上しているので第二工場全体の
環境負荷は把握出来ない。
本社の従業員が、毎日本社より第二工場に出向いての作業となり、本社の環境関連活動を
遵守している。

4　環境経営目標と実績

運用期間（2020年1月から2020年12月：12ヶ月間の実績）運用期間%は目標に対して

環境負荷		単位	基準期間 2012 年 1 月 ～2012 年 12 月	2020 年度目標	運用期間 2020 年 1 月 ～2020 年 12 月	評価
購入電力		kwh	63,647	40,000 前年維持	46,038 113%	×
化石燃料	ガソリン	ℓ	10,345.18	6,500 前年維持	6,704 103%	×
	軽油	ℓ	790.52	6,000 前年維持	5,582 93%	○
	灯油	ℓ	996	1,000 前年維持	876 87%	○
CO^2排出量		Kg-CO^2	52,633.11	57,202 前年維持%	53,961.92 91%	○
水道・排水量		m³	375	数値目標設定せず 節水に心がける	322 －	－
コピー用紙		Kg	449.5	430 前年維持	475 110%	×
一般廃棄物	可燃、資源	Kg	排出量実績値 188.8	排出量実績値	295.4	－
産業廃棄物	金属廃棄物	Kg	1,240	1,000 前年維持	1,050 105%	×
	廃ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ(ﾎﾞｯｸｽ含む)	Kg	4,971.2	16,000 前年維持	17,419.6 108%	×
	汚泥	Kg				－
エンジン洗浄促進台数		台	0	10	3 30%	×
低公害車販売台数（中古車含む）		台	152	220	246 111%	○
エコドライブの実施				エコドライブの実施	実施	－
エコ対応製品販売数	エコタイヤ	本		500	498 99%	×
	添加剤類	本 金額		150 本 1,200 千円	208 本　138% 1,704 千円 142%	○ ○
	ﾘﾋﾞﾙﾄ・中古部品	個 金額		ｼﾞｬｲﾛ　500 個 自動車　250 千円	510 個　102% 287 千円　114%	○ ○

＊エコ製品の販売欄に関しては、目標達成率としています

電力のCO^2換算係数は、0.474 Kg-CO^2を使用

ＬＰＧ：少量なので未記載セルの黄色部分のパーセントは達成率を表記

CO^2の排出量は目標数値より減少した。
総合的に目標値に対し未達成の項目が減少した。
各々の10％超の増減要因は下記の通りである。

運用期間中の目標値に対する増減10％超の要因
目標達成原因

軽油（化石燃料）
バイクの配送用に使用しているトラックを新型車両に代替えした結果、燃費が向上し軽油使用量が減少した。

灯油
事務所の暖房に石油ストーブを使用しておりますが、2020年度は、緊急事態宣言などもあり、従業員の退社時間が早まり、石油ストーブの使用時間が短縮したことによる。

低公害車販売台数
新車販売、中古車販売共に、100％の低公害車となっている。
2020年度はコロナ禍で中古車を購入する方が増加し、販売台数を伸ばした。
当初目標の220台に対し246台を販売し、111％達成した。

エコ対応製品販売数
エコタイヤの年間販売本数は目標値500本に対し実績498本となり達成値は99％となりました。
エコ対応の添加剤類は、150本目標に対し、208本の実績で、本数目標は138％達成、売上目標額も性能の良い添加剤類を販売できたことにより148％の達成となった。
中古パーツの利用に関しては、バイク用は自社で作成しており、欠員メカニックも6月には人数補充が完了したので、順調に作製も行えた結果、102％達成した。自動車用もサービスフロントからお客様にご提案する件数も増え、142％を達成した。

目標未達成要因

電力
2020年度は、バイクの販売台数・修理台数が増加したことにより作業スペースが足りず、6月よりバイク用の修理工場を新たに借りたことにより、電力使用量が増加した。
工場の拡大が活動期間中の運用開始また、実績がないままにCO^2**排出量の**2020年度目標値を57,200 Kg-CO^2（前年実績49,000 Kg- CO^2）に設定した為数値が大きく異なった。。

ガソリン
2020年度は新型コロナの感染対策として、公共交通機関を利用して通勤していた社員に社用車にて通勤することを許可した結果、ガソリンの使用量が増加した。

コピー用紙
2020年度のコロナ禍におけるデリバリーバイクの需要増による売上増加が、見積書・注文書・請求書などの紙類の印刷増加が要因となり、コピー紙の使用量も増加した。今後、電子化などの対応を進めていきたい。

産業廃棄物（金属廃棄物）
バイクのリサイクルパーツ作製のために分解したバイクから出た金属を廃棄せずに、鉄の買い取り業者に販売するようにしてゴミ削減を行っているが、新型コロナの影響によるデリバリーバイク需要の高まりで、リサイクルパーツの作製量が増加した結果、廃棄物の処理量が増加した。

廃プラスティック（ボックス含む）
2019年度は、最大取引先のバイクのリースアップ車両台数が増加したが、2019年の11月・12月のリースアップ車のボックスの廃棄が2020年1月・2月に行われた結果と取引先のボックスのサイズが数年前より大きくなったことにより廃棄量が多くなったことに起因する。

エンジン洗浄実施台数

エコアクション21の取組当時（2010年3月）から10年が経過し低年式車が減少傾向にあります。
そのためエンジン洗浄は、環境水準非対応の低年式車の車検のお客様に対し声掛けを実施する目標に切替た。
年間10人のお客様に声がけを実施したが、お客様自身の予算の関係など施工実施には苦戦している。
今後はエンジン洗浄よりもエコ製品の販売促進に力を入れていく。

5　環境経営活動計画

5.1 二酸化炭素（CO^2）排出量

CO^2の排出起源は電力と化石燃料使用量に限定されるので目標としては電力と化石燃料の削減とする。
2020年度の換算係数は、目標値57,202に対し運用実績53,961と減少した。
活動計画としては、コロナ禍では対応できることに限りがあるので、生産性を高めることによる残業時間の削減などで対応していく。

5.2 電力

エコアクション21の認証より10年が経過しました。
照明器具の省エネ化、事務機器の省エネ化、不在時の消灯、残業の削減等により電力消費量の削減に努めているが修理工場の増加により目標の40,000 kwhから46,038 kwhと目標数値を超える結果となった。
下記項目を厳守し、更なる削減に努めます。

①不使用時の電源断の徹底
Ⓐ不使用時の消灯徹底
就業時間前後の空席エリアの消灯を徹底
昼休みの消灯（減灯）
残業時間の削減
Ⓑ設備更新時には省エネ型機器・設備の購入
PC、プリンタ、コピー機、ＦＡＸ、テレビ、プロジェクタ等
Ⓒコピー機／PCは省エネ運転モードに設定
Ⓓ蛍光灯は、省エネタイプのものに順次切り替え
②エアコン使用時の温度設定を以下のようにする
夏は２６℃±１℃以上、冬は２４±１℃以下（表示：設定、運転時間）

5.3 化石燃料

灯油　：事務所と来客用スペースの兼用及び工場でのストーブ使用ですが、可能な限りこまめな温度設定を行い灯油の減少に努める。
ｶﾞｿﾘﾝ　：ｶﾞｿﾘﾝの使用に関しては、コロナ禍で公共交通機関の利用、相乗、などの対応は難しいので、効率等を配慮した使用方法を実施し引続き、ガソリンの使用量削減に努める。
軽油　：軽油の使用は、エルフ（ローダー・2ｔトラック2台）の3台のみ使用しています。
業務内容により、出動回数や距離が変動するため予測は難しい。よって、今後も現状維持を目指していきます。

5.4 廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量は、紙、缶、ペットボトル等の区別に加え、お弁当容器をリサイクルとしての区別も徹底し、排出量の削減に努める。
金属廃棄物排出量は、引き続き金属の買取業者に売却していく。
廃プラスティック排出量は、顧客先のバイク用のボックスのサイズが変更となり、ボックスの再生利用が出来ず、廃棄以外の利用方法が見当たらない。
バイクや車のFRP製のパーツは修復再生可能なものを再利用していくことにより排出量の削減に努める。
①分別を徹底し、再利用・再生利用の比率を上げるとともに、排出量を低減する
金属・プラスティック廃棄物の資源化を推進

最終処分に回る廃棄物を減量する
②縮小コピー、裏紙の使用を推進。ミスした紙はメモ用紙などに転用する。また、書類のﾃﾞｰﾀｰ化によるﾍﾟｰﾊﾟｰﾚｽ化に取り組んでいる
③再使用可能物品の社内有効利用
・不要資料の整理を行い、余剰となったファイルを再利用
④不要段ボール・弁当容器の再利用及びリサイクル用の排出
⑤再生インクカートリッジの使用、トナーの業者回収を継続
⑥廃棄物収集運搬／処理事業者との契約（その際　事業許可証の確認）
⑦マニフェスト管理の完全実施

5.5 水道・排水量の削減

目標　現状維持以下をめざす

① 資源節約のため、全員で節水に努めます（節水の注意書きを貼る）。
② 圧調整を図り、水の流し過ぎ等の無駄を抑制し、常に節水に努める(節水ゴマの設置)。
③ 雨水の貯留タンクは設置済のため再度、社員に雨水利用を徹底する。
④ 水漏れ箇所の点検・修繕

5.6 エコ整備の推進

エンジン洗浄以外においてもエコ整備としての取り組みを進める。

①エコ整備の有用性について知識を習得し、わかりやすい説明やエコ整備技術向上に努める
②エコ整備、エコ車検の技術講習会への参加、社内での勉強会の開催
③エコ整備、エコ車検の認知度向上に努める
・ポスター掲示など。顧客へのＰＲツールの作成・調査・研究
④エコ整備、エコ車検による燃費向上、排出ガス削減を認知してもらうようエコ整備のパック商品、などを今後検討していく。

5.7 低公害車・次世代車両の販売の推進

①低公害車の販売を積極的に推進する
②衝突回避安全装置付きのサポートカーの販売も積極的に推進する
③同知識の習得
④顧客へのメリット説明に努める

5.8 その他

社員への環境意識高揚のため、毎週1回の朝の地域清掃を継続していく。

6. 今年度以降の目標（次年度の取組内容）

2012年度数字を基準年度として3年間の環境負荷低減の目標を記載する。

環境負荷		単位	2012 年度 2012 年 1 月 ～2012 年12 月	2020 年度 2020 年 1 月 ～2020 年 12 月	2021 年度 2021 年 1 月 ～2021 年 12 月	2022 年度 2022 年 1 月 ～2022 年 12 月	2023 年度 2023 年 1 月 ～2023 年 12 月
電　力		Kwh	63,647	40,000 62%	47,000 73%	47000 （前年維持）	47,000 （前年維持）
化石燃料	ガソリン	ℓ	7,700	6,500 84%	8,000 （103%）	8,000 （前年維持）	8,000 （前年維持）
	軽油	ℓ	5,300 （前年維持）	6,000 （113%）	7,500 （141%）	7,500 （前年維持）	7,500 （前年維持）
	灯油	ℓ	1,250 （前年維持）	1.000 （80%）	1.000 （80%）	1,000 （前年維持）	1,000 （前年維持）
CO^2排出量		kg- CO^2	59,264 （6%）	57,202 （96%）	65,000 （109%）	65,000 （前年維持）	65,000 （前年維持）
水道・排水量		m^3	数値目標設定せず節水に心がける	数値目標設定せず節水に心がける	数値目標設定せず節水に心がける	数値目標設定せず節水に心がける	数値目標設定せず節水に心がける
ｺﾋﾟｰ用紙		kg	484 現状維持	430 （88%）	480 （99%）	480 （前年維持）	480 （前年維持）
一般廃棄物	可燃	kg			数値目標設定せず節減に心がける	数値目標設定せず節減に心がける	数値目標設定せず節減に心がける
産業廃棄物	金属廃棄物	kg	1,000	1,000 （100%）	1,000 （100%）	1,000 （前年維持）	1,000 （前年維持）
	廃ﾌﾟﾗｽﾃｨｯｸ	kg	16,000	16,000 （100%）	17,000 （106%）	17,000 （前年維持）	17,000 （前年維持）
エンジン洗浄促進台数		台	7	10	5	5	5
低公害車販売台数（中古車含む）		台	130	220	230	230	230
エコ対応製品販売数 エコタイヤ		本		500	500	500	500
エコ対応製品販売数 添加剤		本		150	200	200	200
		仕入額 単位：千円		1.200	1,700	1,700	1,700
エコ対応製品販売数 リビルト・中古部品		ｼﾞｬｲﾛ　個		500	500	500	500
		4輪ﾊﾟｰﾂ 単位：千円		250	300	300	300

7　環境関連法規への違反、訴訟等の有無

7.1 適用となる主な環境関連法規

当社の適用する環境関連法規は以下の項目です

1、 廃掃法
2、 グリーン購入法
3、 東京都の都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
4、 自動車リサイクル法
5、 東京都火災予防条例30条
6、 西東京市環境基本条例
7、 フロン排出抑制法
8、 自動車ＮＯｘ・ＰＭ法

7.2 違反、訴訟等

環境関連法規制／その他要求事項について期間中の違反事項はありませんでした。
また、過去３年間において関係機関等からの法規制違反の指摘及び訴訟などの請求はありませんでした。

8 環境経営活動の取組結果評価と見直し及び次年度の取組み

エコアクション21の認証　登録より9年が経過し、代表取締役をはじめとし、社員全員の努力や環境の変化、
自動車、照明、事務機器等々の入替により各環境負荷において、当初の二酸化炭素排出量よりなりの削減実績
となった。
ただ、現在までに削減出来るものは実施しており、今後のさらなる削減は環境にやさしい製品・サービスの販売増
によって行っていく。

8.1　 CO^2（電力の削減）

エコアクション21の認証　登録より今までに、展示場の水銀灯をLEDに変更・工場の蛍光灯をＥ－ＣＯＯＬに変更・
社員の意識による不使用時の消灯などを実施し、結果二酸化炭素排出量の削減が数値となって表われている。
また、事務職の残業削減により退社時間が早くなり、電力使用の削減に寄与している現状を引き続き継続する。

8.2 水道

整備車両入庫台数や販売台数が増加すれば、自然と水道の使用量が増加する傾向にある。
しかし、雨水タンクの利用、洗車方法を含め、今後も節水意識を持ち続ける必要がある。

8.3コピー用紙

毎月2回のイベント開催用チラシ作製でコピー紙も増加傾向にある。また、自賠責保険加入の
コピー枚数も増え会社の経営方針の変化により削減は難しい状況にある。
現在努力しているが、更なるデーターベース化やメール、書類の共有、裏紙の使用等ペーパーレス化
を引き続き進める。

8.4 廃棄物

一般廃棄物は、現在、紙・ペットボトル・缶・弁当用プラ容器のリサイクル回収を実施している。
引き続き継続し環境に配慮する。
産業廃棄物については、特に廃プラスチックのバイク用ボックスの再生利用が出来なくなり大幅に増加した。
今後、ボックスの再利用、その他産業廃棄物の削減の方法を検討する。

8.5エコ整備・エコ車検

エンジン洗浄は、なかなかコスト面などで、お客様の承諾が得られず施工にまで至らない。
タイヤに関しては、すべての商品がエコ対応をしているため、更なる販売数量の拡大をめざし、且つエコタイヤの
中でも、環境性能にフォーカスしたタイヤの販売数量を現在の2割を下回らないように努力していく。
燃料添加剤の販売促進は、声掛けを今後も続けていき、性能や効能等お客様の大切なお車のコンデションが良い状

態を保てるよう、分かりやすく説明する努力をし、更なる目標を達成できるようにする。
リビルト・中古部品に関しては、自動車のリビルト部品の仕入高を更に上乗せできるようお客様への説明を丁寧にしていくほか、3輪バイクの事故修理に関しては、自社にてリサイクルパーツを作製しているので、今後はそちらの利用頻度を出来るだけ挙げていく努力をする。目標数値には件数目標にバイクのリサイクルパーツを含んだ数字に修正を行った。仕入金額数字は、自動車部門のみの数値となっている。

8.6低公害車販売促進

欠員していた営業スタッフの補充も完了し、販売台数目標をクリアした。また、実際に販売した車両は全てエコ対象車であった。
2020年度は更なる販売台数増加の為の努力を行っていく。
新車に関しては低公害車販売促進に問題はない。新車の販売台数を増やせば自然と低公害車販売促進につながる。今後もハイブリッド車などを含む新車の販売台数の増加に努力する。
中古車に関しても、自動車業界の流れから大半が低公害車に入れ替わってきており、低年式自動車の入庫が減りつつある・

9　代表者による全体の評価と見直し

9.1　経営システム

経営システムは順調に働いているので、このまま継続する。

9.2 環境方針

方針そのものは、企業活動に見合っているので、このまま継続する。

9.3 環境目標

環境への取り組みも、経済活動を行いながら、継続していくと、数値を減少させていくだけでは、限界がある。
今後は、営業活動と共存できる方向で、環境に優しい商品・サービスを提供していく方向に重点を置いていきたい。
エコタイヤ、添加剤関連の商品の販売実績を今後も伸ばせるように新規入社した社員にも教育指導を行っていく。
また、廃車予定のバイクより再生したリサイクル部品の利用に関し自社工場のみならず提携工場への支給を含め、積極的に取り組んでいくようにする。

代表である私自身も2012年より市長への諮問機関である西東京市環境審議委員会の委員として、約6年に亘り活動をし2018年5月をもって任期満了となったが、今後もそこで得た経験を活かし積極的に地域との連携などを考えていきたい。

9.4 環境活動計画

環境活動は、計画通りに推移しているので計画通りに継続する。

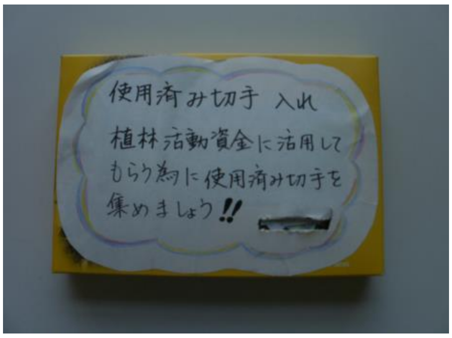
＜取り組み状況＞

蛍光灯器具からE-COOLへ変更

一部は間引きを行っています

雨水タンクの設置により雨水の有効利用

古切手の収集による植林活動への寄付

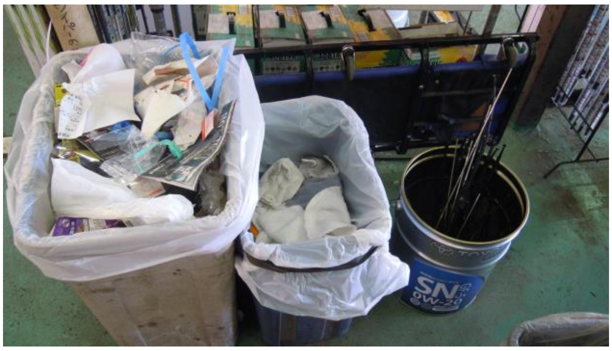


展示場の水銀灯をLED電灯へ変更

近所へのお使いは自転車でエコ！

工場の中でもごみは細かく分別しています

一般ごみ　　使用済みウェス　　金属ごみ



リサイクルごみは細かく分別しています(業者さんが回収にきます)

スティール缶

アルミ缶は植林友好協会へ寄付

ペットボトル

弁当容器など

週に一度、近隣の道路の清掃や、公園の草むしりなどを全社員で実施しています。
社員の環境への意識向上につながっています。

週一度の清掃

工場内の油水分離層は定期的に清掃しています

廃バッテリーは業者さんが回収してくれます

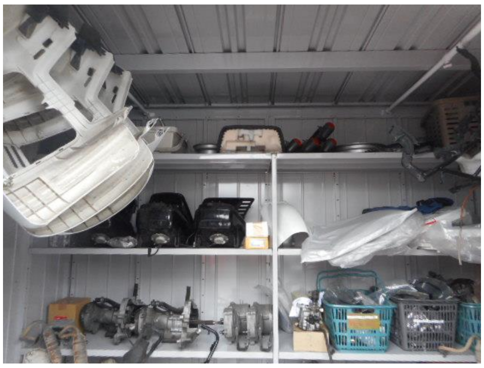
車の燃費向上のご案内をし、添加剤を積極的に
販売しています。

環境対応車を積極的に販売します！

また、従来の発煙筒の代わりに、電池式の非常信号灯を
ご案内することにより、期限切れによる廃棄発煙筒の
削減を推進しています。

デリバリーバイク用リサイクル部品の作成・在庫管理

カウル・リヤカバー・ボックスなどの大型部品に関し、廃車予定のバイクから外し、洗浄、ペイントなどを施し自社にて中古部品の再生をしている。部品庫も用意し、在庫管理を行っている。



廃車予定の車両からエンジンを下ろし、OHを行いリサイクルエンジンを常に３基準備している。

＜次の1年へ向けての取り組み計画＞

自動車業界全体としては、100年に一度の変革期と言われ、電動車、水素車、自動運転車、衝突安全ストップ車など次世代の車両の開発が進んおります。まずは民間企業としては、その変革の中で淘汰されないような存続の努力が第一となっておりますが、新技術の車両に関してもどのような環境への取り組みが出来るかを今後も鋭意努力しながら、探って参りたいと思っております。

また、2020年のコロナ禍において需要が増大したデリバリーバイクの整備に関しては、全国の提携工場約80社に保守委託をしていることもあり、整備、事故修理などに必要とする部品を自社のみならず、他社用として支給することが多々ありますが、それら部品を新品ではなく、廃車予定のバイクより外し自社にて再生したリサイクル部品や、OHエンジンなどを支給するような取り組みを本格化し1年が経過しております。今後、この部分を更に伸ばし、環境に優しいバイク整備を提携工場分も含め、取組んでいきたい。

日本の行政の中で最高水準の一般ゴミのリサイクル率を誇る西東京市に存在する企業として、弁当容器のリサイクルを開始するなど、事業ゴミの削減努力をより一層していきたい。
また、事務所内のゴミの分別をより一層厳しく行い、リサイクルゴミが一般ゴミと混在しないよう徹底して参ります。

また、西東京市の環境審議委員として活動を行った経験も無駄にせず、今後は地域にて営業活動を行っている企業として、他の企業とも連携する道を模索しつつ、微力ながら、地域への貢献といった地道な努力を継続していき、社員の環境への更なる意識向上と共に、地域住民の皆様にも当社の環境への取り組み姿勢を理解して頂くよう環境基本方針に基づき、より一層環境問題に取り組む姿勢を内外に示して参ります。

株式会社オートアベニュー
代表取締役社長　伊藤　理香